

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

334

AI（人工知能）を。ただし、その研究に活用するAI For Science (AI4S)の動きが広がっている。だがデータやモデルが個別に発展するだけでは研究は加速しない。車でいえば、タイヤやハンドルなど部品が優れていても、それだけでは走り出せないのと同じである。AIの構成要素を結び付ける設計があつて初めてAI4Sのエンジンがかかる。

AI for Scienceの展望

3

個々の高度化要素つなぐ

要約や仮説候補の提示の多くが計算機内で完結する研究など、研究環境によつても進展の度合いはさまざま。を つなぎ、融合する設

多様な進展

研究現場ではAI4Sの導入が着実に進ん



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(横断・融合グループ) 杉村 佳織

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士課程修了。企業でのAI研究開発を経て24年10月からJSTに出向。AI時代の研究開発戦略立案を担当。博士(理学)。

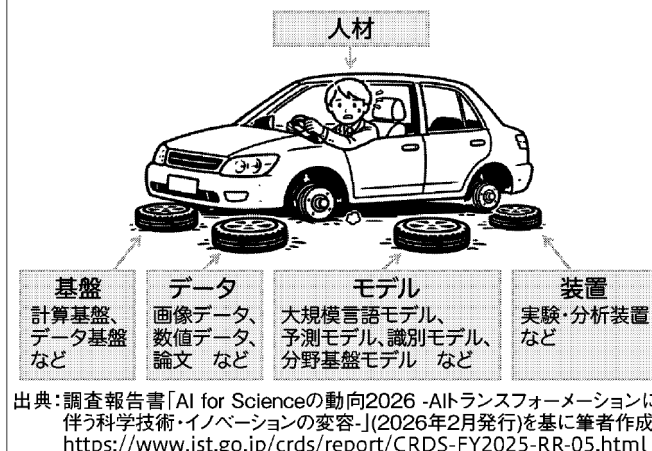
一方、研究計画から実験まで一貫してAIが判断し実行する「自律的研究」が進む分野もある。材料や創業のよ

一方、研究計画から実験まで一貫してAIが判断し実行する「自律的研究」が進む分野もある。材料や創業のよ

一方、研究計画から実験まで一貫してAIが判断し実行する「自律的研究」が進む分野もある。材料や創業のよ

一方、研究計画から実験まで一貫してAIが判断し実行する「自律的研究」が進む分野もある。材料や創業のよ

エンジンがかかるためAI構成要素の接続を



学研究所のリサーチデータクラウドがある。また材料分野で研究データの管理・公開・検索を統合し、認